

Ⅲ 各学年の実践（平成 29 年度の実践を中心に掲載）

1 第 1 学年の取組

(1) 実践内容「みんな なかよし」

① はじめに

「みんな なかよし」のテーマのもと、クラス・学年・他学年、地域の人とのかかわり合いを大切にし、自分の思いを高めるためには、言語活動の充実を図り、言語に関する基礎的基本的な知識や技能を養うことが大切である。そのために、言語活動を重視し、自分の考えを素直に表現できる子を目指し、活動を進めてきた。

② 「みんな なかよし」

ア 言語活動の充実を図るための活動

- ・生活科「2年生となかよくなろう会」（5月）
- ・道徳「わたしのあさがお」（6月）
- ・国語科「ひらがなあつまれ」（9月）
- ・国語科「しらせたいな みせたいな」（10月）
- ・生活科「あきをたのしもう」【総合学習発表会】（11月）
- ・国語科「ともだちにきいてみよう」（12月）



【なかよくなろう会】



【総合学習発表会】

イ 身近な人々、社会、自然とのつながりを深める活動

- ・特別活動「なかよしきゅうしょく」（5月）
- ・生活科「校区探検」（5月）
- ・生活科「笑顔のあさがお宅配便」（7月）
- ・学級活動「いのちの授業～うしのいのち～」（10月）
- ・道徳「いただきま～す」（10月）
- ・特別活動「縄リンピック」（12月）



【校区探検】



【いのちの授業】

③ ESD国語科 単元「しらせたいな みせたいな」(10時間完了)

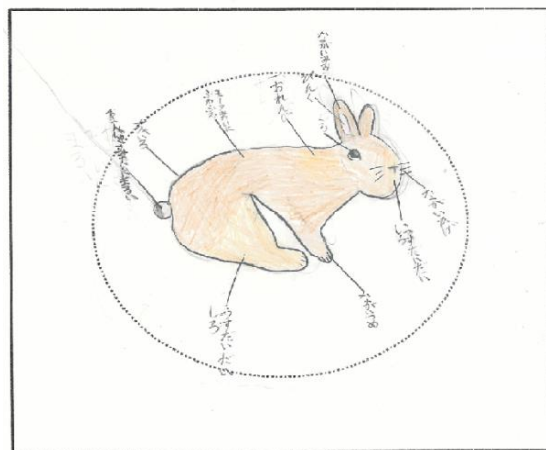
第3時では、ESDの要素でもある「多様性」の観点から、前時で描いたウサギの観察カードをどのような視点で描いたのかを出し合い、友達の多様な見方を知り、それを取り入れる姿勢を身に付けさせたいと考えた。そして、知らせたいものの色や形、様子などを多面的に見て、単語や短い言葉で特徴を書き込ませ、文章を書くときに取り組みやすくさせたいと考え授業を行った。

ア 導入の様子

導入の過程では、事前に描いた観察カードを見ながら、どこに気を付けて絵を描いたのかを確認した。ある児童から「耳」という意見が出たので、そこから、「耳のどんなところ」と発問し、他の児童から「色かな」などの意見が挙がった。その他にも、観察カードに一色で塗っていた児童たちは、「色は一色じゃないよ」という意見に驚いたり、共感してうなづいたりしていた。また、観察の観点がよく分からない児童もいたので、6月の国語の学習で行った、アサガオの観察を題材とした「おおきくなった」を想起させた。すると、児童は思い出したような表情を見せた。想起することでアサガオの観察項目である、かたち、大きさ、高さなどたくさんの観点が挙げられた。このような手だてを取り入れることで導入の段階において、友達の多様な見方を知ることができた。

イ 展開の様子

展開の過程では、導入で行った確認をもとにウサギの動画や写真などの資料を見せ、自分の描いたウサギの絵に付け足しをさせた。導入の段階で、細かく観点を挙げさせたことで、自分の絵に付け足しをしようとする児童がたくさんいた。特に、ウサギの色が一色じゃなかったという友達の意見を参考にして、どの児童も資料をよく見て、二色や三色でウサギの体の色、耳の色、口周辺の色を塗る姿が見られた。また、児童の興味をもった場面をテレビ画面でズームアップしたり、動きを止めたりし、様々な角度から見せることで、児童の興味や関心、意欲が高まった。ウサギが草をもぐもぐと食べる動画や、ウサギの爪のアップの写真では、驚いた様子で見ている。このような段階を踏むことにより、たくさんの観点で付け足しを行うことができ、次の活動である、観察して見つけたことを絵のそばに短い言葉で書き込む作業も生き生きと取り組むことができた。



【観察カード】

ウ 終末の様子

観察カードに短い文章で書き込む作業の後、何人かの児童の観察カードをTVに大きく映した。ある児童は、ウサギのひげを「白いひげ」と表現し、またある児童は「透明のひげ」と表現をしていた。ウサギの目の表現でも、「ビー玉みたい」と表現している児童や、「黒い豆みたい」と表現している児童がおり、多様な見方や表現の確認をすることができた。

エ 児童の感想や教師の反省など

指導にあたり、児童が友達の多様な考えを知り、一つの物体であるウサギを、多面的に見ることに重点を置いて取り組ませた。児童は、ウサギをい



【ウサギの動画を見る様子】

ろいろな角度から観察し、たくさん気が付いたことを書き込むことができた。また、今回は人権教育の観点からも、自分の考えを分かりやすく表現し、伝える力や相手の考えを共感的に受容し、対応する力を育てたいと考え授業を行った。その結果、友達の意見を自分の観察カードに取り入れたり、さらには自分の気が付いたことをさらに深めて書き加えることができ、共感的な受容や対応ができたのではないかと考える。一方で、反省点としては、ウサギの絵に観察して見つけたことを短い文章で書く作業の際に、ウサギの部位（耳、口、目など）の名前を書く児童が数名いた。作業に入る前に、もっと細かく書き方を指導するべきであった。

また、上位の児童は見つけたことを「～のような形」など何かに例えて表現することができていたが、下位の児童は表現の仕方が単調になっていた。事前にどんな表現方法がよいかを確認する必要があると感じた。

最後に児童からは「一回見たときには気付かなかったことが、友達の意見を聞いた後、もう一度ウサギを見たときは、たくさん気付くことができたし、観察しておもしろかった」という感想が挙がった。

オ 次時の活動

三つの部位を選び、短冊カードに説明文を書く学習を行った。耳について説明するときは、一つの部位につき二つ以上の説明をすることをルールとした。（【短冊カード】参照）

例えば、一つ目の説明は、「耳はとても長いです」二つ目の説明は「大きな声を出すと耳が、びくびく動きます」などである。前時でたくさんの項目をウサギの絵に書きこんだことで、ほとんどの児童がスムーズに短い説明文を書くことができた。

最終的にはこの短冊カードを組み合わせ、段落や誤字脱字に気を付けながら、ウサギの説明文を完成させた。

せなか				
	ん			
	じ	い		
	て	ろ		
	す	は		
		ち		
		や		
		い		
		ろ		
		と		
		お		
		れ		

せなか				
	い			
	て	せ		
	か	な		
	わ	か		
		い	は	
		い		
		て	も	
		す	こ	
			も	
			こ	
			し	
			て	

みみ				
て	お			
か	み	お		
わ	み	お		
い	か	さ		
い		な		
て	び	こ		
す	く	え		
	び	を		
	く			
	う	た		
	じ	す		
	い	と		

みみ				
	す			
		み		
		み		
		は		

【短冊カード】

④ その後の活動

2月には、地域のお年寄りに来ていただいて、「こままわし、お手玉、あやとり」などの昔の遊びを教えていただいたり、育てている春のプランターを届けたりして地域との交流を深めた。

また、1年間のまとめとして、文集を作ったり、できるようになったことをみんなに発表したりし、その後4月に入学してくる新1年生を迎えるための準備を行った。

- ・生活科「むかしのあそびをたのしもう」
- ・生活科「笑顔のチューリップ宅配便」
- ・生活科「あたらしい1年生をむかえよう」
- ・国語科「いいこと いっぱい、一年生」

(2) 実践の成果と課題

「みんな なかよし」をテーマに、人とのかかわりをもつ場面を多く設定し、言語活動の充実を図ることで、自分の考えを素直に表現できる子を目指して活動を進めてきた。

学年当初より、いろいろな手だてを段階的に進めていくうちに、少しずつ発言できる児童が増えていった。そして、総合学習発表会では、園児や地域の人に対して、どの児童も自信をもって、呼びかけや説明などの活動を積極的に行うことができた。